

加藤周一における近・現代批判と「芸術」の思想

福井 優

本稿は、戦後日本を代表する知識人である評論家、加藤周一(1919-2008)の思想史研究である。本稿の問題の所在は、戦後日本においては、ことに 1950 年代後半の高度成長期以降に顕在化した近・現代の合理化・非人格化・脱感情化による人間性の喪失という問題に対して、加藤がいかなる批判を展開したのか。また、かかる危機的な事態に加藤は芸術の役割を強調するのだが、それでは、加藤の芸術の思想とはいかなるものであったのか、である。このような問題を分析する本稿の意義は、第一に、加藤の芸術の思想を詳細に検討している点である。加藤論の先行研究では、加藤の美的感受性や芸術への深い理解に対する言及はあるものの、その芸術の思想を詳細に検討したものはなかった。本稿は加藤の芸術の思想に焦点を当てており、かかる点で、既存の加藤論に新たな知見を付け加えることができると考える。第二に、加藤の思想の戦後思想史における意義を指摘している点である。これまで、加藤は戦後思想史の全体を扱った研究においても取り上げられることはあまりなく、また、加藤論においても戦後思想史の中で加藤の思想を意義づけることはなされてこなかった。本稿は、「戦後啓蒙」の中心的知識人である政治思想史家：丸山眞男(1914-96)と加藤の思想を比較することで、それを試みている。以上のような問題関心にに基づき、本稿の構成は、第 1 章：近・現代への対峙、第 2 章：「芸術」の思想、第 3 章：日本美術の伝統に見た可能性、である。

まず第 1 章では、加藤の近・現代批判について検討した。加藤は自身の戦争体験から、「いくさ」が人間を物理的に殺すだけでなく、その人格を破壊するものであるということ認識した。そして、人間から人間性を奪う「いくさ」を引き起こす構造そのものを明らかにする必要がある、という考えを抱いた。戦後、加藤は 1950 年代後半から、高度成長による大衆社会化・管理社会化が進行する状況を見て、近・現代の過程で必然的に起こる世界の合理化とそれに付随する人間性の喪失に対して鋭い批判を展開する。その内容は、加藤にとって人間の条件とは、かけがえのない一回限りの経験の特殊性である。しかし、現代はあらゆるところが合理化され、官僚制化される傾向にあり、その世界の中では、人間の経験の直接性や感受性は疎外されざるを得ない。かかる事態に対して加藤

は、人間性の回復と価値のラディカルな転換のために芸術の役割を強調する。

第 2 章ではこれを受けて、加藤の芸術の思想について分析した。加藤は、芸術が人間の一回限りの絶対的な経験の特殊性を極限まで突き詰めた先に、普遍的な世界の全体性や人間の条件を捉えるものだと考えていた。そして、芸術家は自身の経験の特殊性を通じて、自己の内部でつかんだ世界や人間の本質を、一つの作品として「形」に結晶化させることで外在化＝社会化させる。この芸術家の精神が「形」となった芸術作品は、時空間を超えて見る者の心を強く感動させ、疎外された人々の人間性を回復させると共に支配的な価値観を変えていく可能性がある、と加藤は考えていた。

第 3 章では、かかる加藤の芸術の思想が、その日本美術論にも反映されていることを明らかにした。また、加藤が日本の芸術的伝統に見た可能性についても検討した。加藤は、日本における豊かな芸術的創造性の基盤は、日本文化の特質と関係しており、日本文化は、超越的契機を含まないが故に、輸入された外来思想を不断に「日本化」し洗練し、芸術に転化させることができたとする（「雑種文化」）。また、このような日本文化においては、芸術家の感性は「今＝ここ」に集約されるため、千利休(1522-91)のような人生を芸術化した「純粹芸術家」を生むことになった。利休らは、「今＝ここ」の瞬間に、世界を、人間の本質を見ることができた。また利休らは、芸術と政治権力との緊張関係の中で、芸術的創造を通じて政治権力による支配的な価値に挑戦したと加藤は考えていた。かかる点に日本の芸術的伝統の現代における意義と可能性を見て取ったのである。

最後に、以上の加藤の思想を丸山と比較し、加藤の戦後思想史における意義を述べた。丸山にとって、戦後日本の大衆社会的状況は「規範意識」の決定的な喪失を意味した。これに対し丸山は、日本思想史の研究の中で「思想の伝統化」をはかった。このような普遍的・超越的価値がない日本社会において、個人の内面の感性的欲望を規律する強い主体を求める丸山に対して、加藤はその芸術的感性や芸術的創造に対する信頼からも分かるように、むしろ人間の感性を重視し、経験の特殊性・一回性に徹することで普遍性に到達する可能性があると考えていた。芸術の視点から見た加藤のこのような思想的特徴は、丸山的な「近代主義」とは異なり、戦後思想史における独自性があると考えられる。